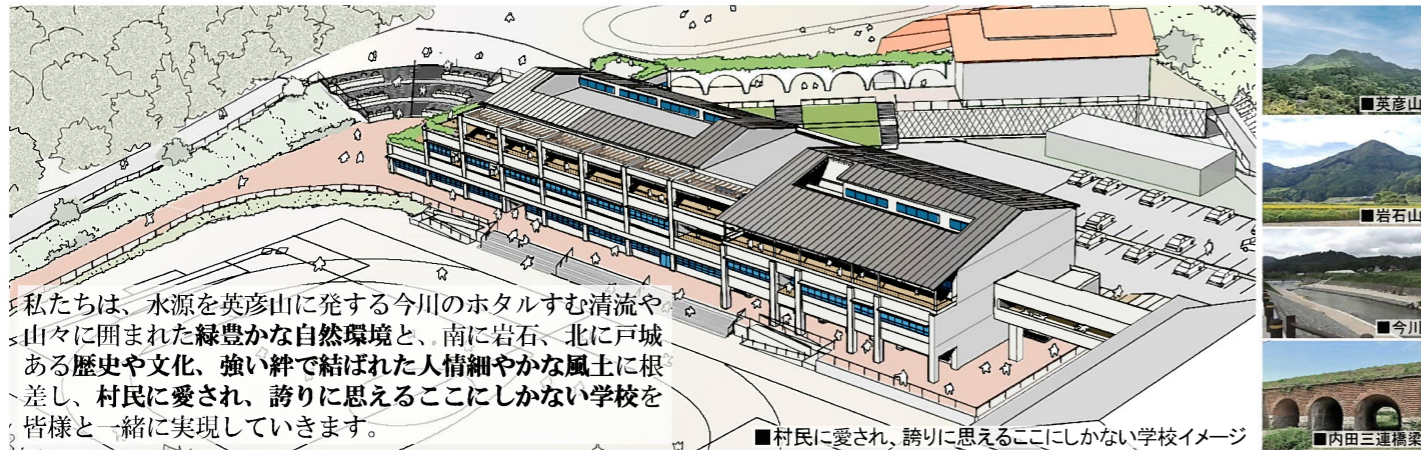


● 業務の実施方針

実施方針は、業務への具体的な取組体制・担当チームの特徴、工程計画・動員計画及びその他業務実施上の配慮事項を簡潔に記述すること。



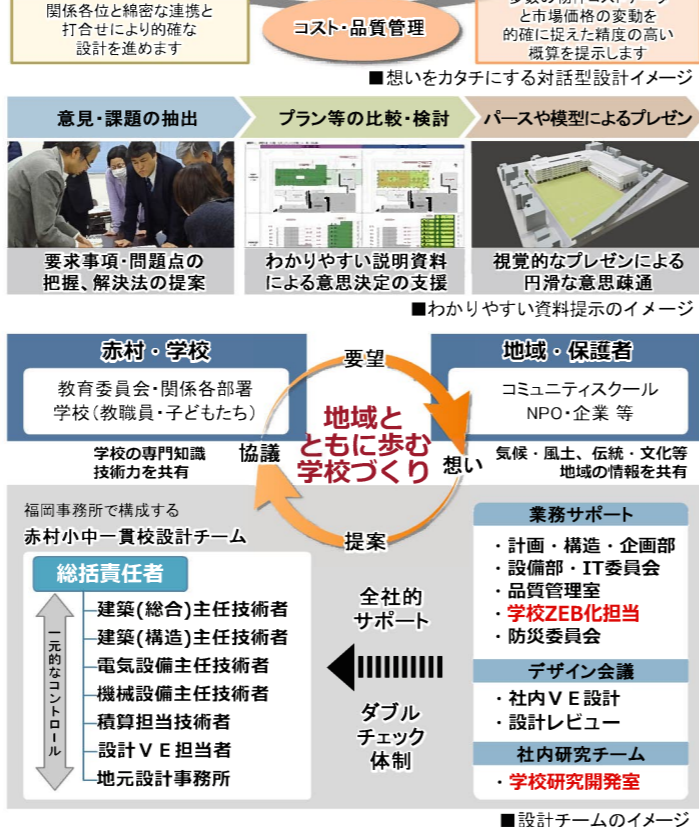
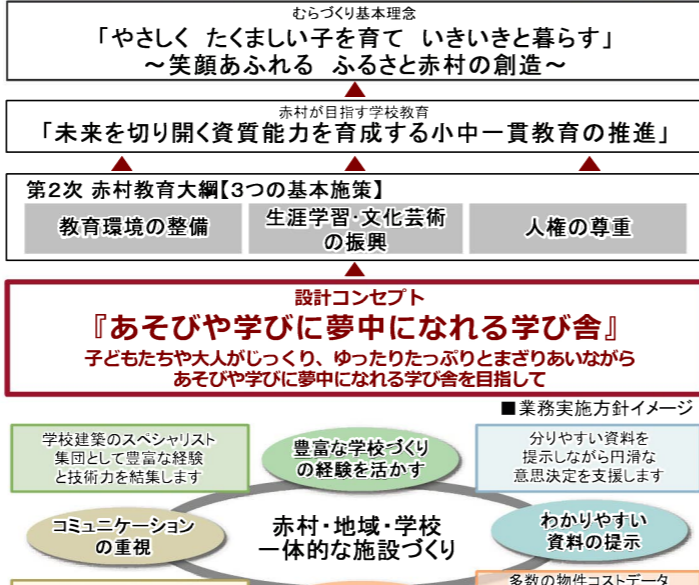
1 地域との絆を結ぶ、村民の誇りとなる小規模校ならではの小中一貫校の実現

- 自ら学び・考え・行動し、解決する力を育む学び舎
自然や歴史に富んだ赤村の豊かな地域資源を活かし、多様な学習に対応できる教育環境を実現します。
故郷赤村への郷土愛を育み、地域の絆を繋ぐ学び舎
図書室や特別教室（将来的な地域開放）を中心とした地域に開かれた学校づくりによって、赤村の歴史・伝統・文化の継承と文化・芸術活動の振興を図り、郷土愛を育み、地域の絆を繋いでいく学び舎を実現します。
一人ひとりの多様性を認め合う心を育む学び舎
一人ひとりの個性に応じた居場所づくりから、様々な年代の子どもたちが、まぎりあいながら学習・交流・生活できる居場所づくりまで、多様性を認め合う心を育む学び舎を実現します。

2 村民の想いをカタチにする取組体制と豊富な実績を持つ設計チームの特徴

- みんなの想いをカタチにする対話型設計
学校建築のスペシャリスト集団として豊富な学校づくりの経験を活かすとともに、関係各位との綿密な連携と適切な打ち合わせを重ね、わかりやすい資料の提示やヒヤリング・ワークショップなどを行いながら、みんなの思いを受け止め、十分な相互理解と合意形成を図る対話型設計を行います。
隣接自治体の実績を持つ経験豊富な設計チーム
赤村に隣接する自治体の同種設計実績（小中併設校：14000㎡）に従事した担当者を中心に豊富な経験を活かし、基本設計から実施設計のみならず福岡県をはじめとした各種関係機関との補助申請、法手続き等の調整を行うことで御担当者の方々を力強く牽引します。
設計チームを支える全社的なバックアップ体制
公立学校施設整備に関する補助金やICT教育環境、アクティブラーニング、防災機能強化など、これからの学校施設のあり方を研究する「学校研究開発室」が業務を支援することで、ソフトからハードまで質の高い「新しい時代に対応する学校づくり」を実現します。
ZEBプランナー認証設計事務所として、「学校ZEB化担当」を配置し、最小限のコストで学校ZEB化を実現する仕様の提案を行います。
田川市内設計事務所との協働体制
近隣地区での実績が豊富な田川市内の設計事務所との協働体制を図り、地域性を大切にしつつ、迅速かつ丁寧な対応を行います。

「やさしく たくましい子を育て いきいきと暮らす」
～笑顔あふれる ふるさと赤村の創造～
赤村が目指す学校教育
「未来を切り開く資質能力を育成する小中一貫教育の推進」
第2次 赤村教育大綱【3つの基本施策】
教育環境の整備 生涯学習・文化芸術の振興 人権の尊重
『あそびや学びに夢中になれる学び舎』
子どもたちや大人がじっくり、ゆったりたっぷりとまぎりあいながらあそびや学びに夢中になれる学び舎を目指して



3 遅延や後戻りのない設計工程と「赤村小中一貫教育促進協議会」の皆様の様々な御要望に的確かつ迅速に対応できる動員計画

タスクスケジュール管理の徹底
タスク管理シートを用いて検討タスクの決定期日や検討を見える化し、関係者と情報共有を図ることでスケジュール管理とタスク積み残しの発生を防止します。
先行検討型の設計手法
業務初期段階から課題点や確認事項を明確にし、設計方針や検討項目の共有化を図ることで手戻りや漏れをなくす先行検討型設計を実施します。

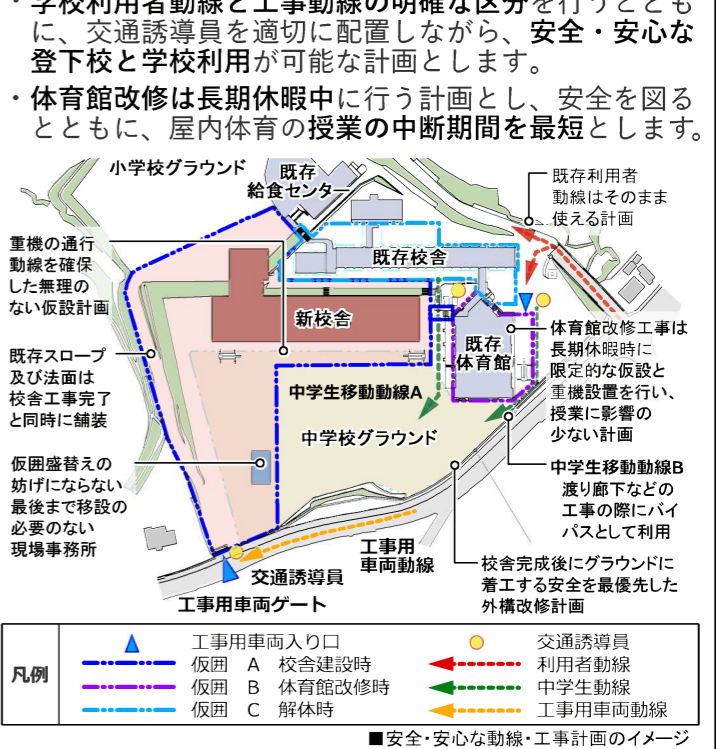
Table with columns for '日程' (Schedule) and '項目' (Items) across '令和5年度' and '令和6年度'. It details the timeline for design tasks like 'Basic Design', 'Implementation Design', and 'Confirmation'.

- 設計フェーズごとの適切な動員計画
意匠、構造、設備の各主任担当で構成する設計体制に、設計進捗に応じた柔軟な追加動員を行うとともに、フェーズごとに適切なサポートメンバーを動員することで確実に業務を遂行します。
豊富な実績データを活用したコストコントロール
豊富な実績データを活用し、段階的に概算工事費の算出を行い、コストコントロールしながら予算内で魅力ある赤村小中一貫教育校を実現します。
検討委員会などの会議支援
業務初期段階においては、プロポーザル案の説明や、赤村小中一貫教育促進協議会からの御要望を抽出するとともに、各種会議の支援や積極的な参加をはじめ、アンケートやワークショップの開催などを踏まえながら、短期間で課題や要求事項を集約・整理します。

4 その他業務実施上の配慮事項

- 赤村の木材を活用した森林再生への取組み
村内の伐採期を過ぎたスギやヒノキを、内装材や学校教材のサインなどに積極的に活用した施設づくりや、英彦山環境ボランティアなどによる森林環境保全活動を通じて、学校づくりが赤村の健全な山の育成（森林再生）に寄与する計画とします。
木育に配慮した教育環境づくり
地元の木材を活用した校舎ができる様子や木材加工の工程などをワークショップを通して、子どもたちと共有し、愛着と郷土愛を育む学校づくりを行います。
林業に関する木育展示スペースを各所に設け、校舎に赤村の木材を使うことで、赤村を潤す循環型の森を創ることの大切さや林業・自然を学ぶきっかけをつくりたい。

5 工事期間中の安全・安心な動線・工事計画



● 課題①: 基本構想等を踏まえた設計コンセプト

・基本構想における整備コンセプトと方針を念頭においたもの  
・計画概要説明書の各事項に概ね即したものと

設計コンセプト『あそびや学びに夢中になれる学び舎』～子どもたちや大人がじっくり、ゆったり、たっぷりとまざりあいながら、あそびや学びに夢中になれる学び舎を目指して～

0 みんなにとって利用しやすく、快適で安全・安心な学校施設配置とします。

■ 施設間の移動のしやすさに配慮した配置計画

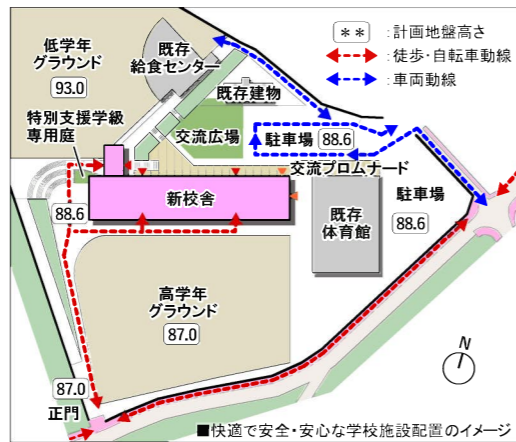
・学習生活の拠点となる校舎を敷地中央に配置し、既存施設との連携や児童生徒・教職員の方々が短距離で移動できるよう配慮した計画とします。  
・地盤レベルが異なる低・高学年グラウンドに、スムーズにアプローチできるように利用学年に応じた昇降口を各グラウンドに面して設けます。

■ 歩車分離の徹底と安全で豊かなアプローチ空間の形成

・徒歩や自転車動線と保護者送迎・地域利用の車動線を明確に区分し、歩車分離を徹底した安全・安心な動線計画とします。  
・保護者送迎や地域図書室を利用する動線は、児童生徒を迎え入れる登下校空間と地域交流空間の2つの機能を併せ持つ、魅力ある豊かなアプローチ空間として整備します。

■ 広くまとまりのあるグラウンドの確保と体格差に応じて活動できる屋外環境づくり

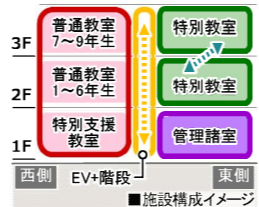
・新校舎を敷地中央部にコンパクトにまとめ、部活動や運動会などに利用しやすい、広いグラウンドを計画します。  
・体格の違いに応じた屋外活動スペースを、高低差のある地盤レベルそれぞれに確保し、子どもたちが安全・安心に、のびのびと活動できる魅力的な屋外環境を創出します。



1 赤村が目指す「未来を切り開く資質能力を育成する」小規模校ならではの小中一貫教育校を実現します。

■ 学年や教科のまとまりがある明快でわかりやすい施設構成

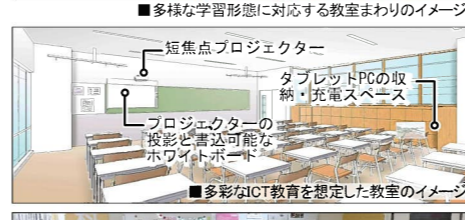
・新校舎西側に普通教室、東側に特別教室を配置した明快で移動しやすい施設構成とします。



■ きめ細やかな指導と多様な学習形態に対応する教室まわり  
・普通教室はオープンスペースと併せ、児童生徒の成長に応じた学習形態にフレキシブルに対応することが可能な計画とします。



■ ICT化に対応する設備環境の構築  
・Web授業や図書室・コンピュータ室の連携利用、GIGAスクールの活性化に配慮したICT教育環境を整備し、新たな学びに対応する計画とします。



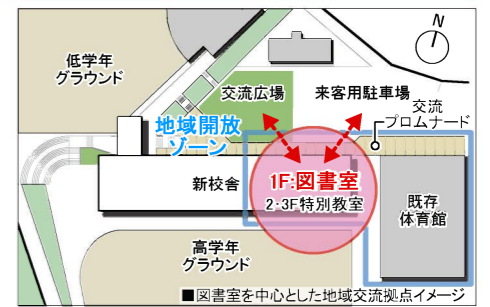
■ 探求する学びを実現する特別教室  
・特別教室は関連する教科をまとめ教科の展示ができるメディアスペースを隣接させ、教科への関心や主体的な学習を促す計画とします。



2 学校・地域図書室を中心とした地域交流拠点の形成と安全・安心な地域開放に配慮した学校施設づくりを行います。

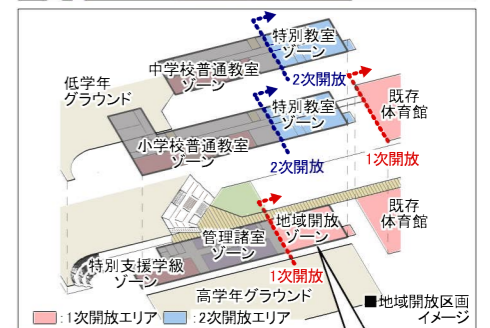
■ 学校・地域図書室を学校の中心に

・コンピュータ室・学校図書室・地域図書室が一体となったラーニングセンターを、地域開放ゾーンとなる体育館側に配置し、児童生徒の学びや村民の方々の地域交流活動の拠点として形成するとともに、赤村の歴史・文化を継承する生涯学習の場として計画します。



■ 地域開放・利用しやすい施設構成

・体育館・図書室を1次開放区画、2・3階の特別教室を2次開放区画として、地域開放ゾーン側にまとめて配置し、明確な管理区画により必要に応じて地域開放区画を広げることが可能な計画とします。  
・多彩な教室開設も視野に入れた施設構成により、村民の芸術・文化活動の一助となる計画とします。



■ 活発な地域連携を促す学校づくり

・地域ラウンジを地域玄関に隣接させるとともに、会議室を地域連携室に近接させることで、地域交流や学校支援活動、災害時における連携利用が可能な計画とします。



3 赤村の自然環境を活かし、自然を慈しむ心と郷土愛を育むエコスクールを実現します。

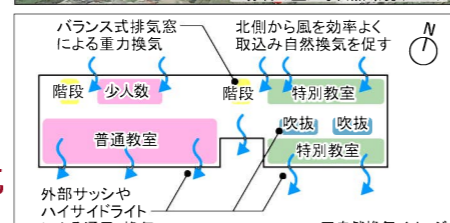
■ 赤村の郷土愛を育み、自然環境と調和した環境共生型小中一貫校

・赤村の自然を慈しみ、赤村への郷土愛を育むため、霊峰英彦山、岩石山の緑豊かな山並みや清流今川に囲まれた自然環境を日々の活動の中で感じ取れる学校づくりを行います。  
・赤村の自然特性を考慮した最低限のコストで学校ZEB化を実現する省エネ手法により、ライフサイクルコストを削減し、長きに亘って村民の方々に愛される学校をつくります。



■ 赤村の気候特性を活かした自然換気

・中間期の主風向となる北側の風を取り込み、自然換気を行うとともに、温度差による重力換気により、空調換気に伴う電力を削減します。



■ エコ技術による「見える化」で環境意識向上を図る学校づくり

・太陽光発電パネルの発電量や消費電力の表示モニターのほか、自然換気窓による風の流れや屋上緑化など、環境配慮項目を視覚化するエコサインを設け、学校全体が環境教材となる学校づくりを行います。



4 『あそび』が「学び」や「健やかな体づくり」へとつながる「赤村ならではの」学校づくりを行います。

■ 「たくましい子」を育てる、思い切り遊べる屋外環境づくり

・敷地高低差を利用し、異なる地盤レベルを機能的につなぐ階段を設け、登下校時の交流や授業での発表、部活動でのミーティング、卒業時の記念撮影など、様々な活動を日常生活の中で気軽に利用できる屋外環境を計画します。



■ 歩きのなかにある『発見・好奇心・交流』を誘発する空間

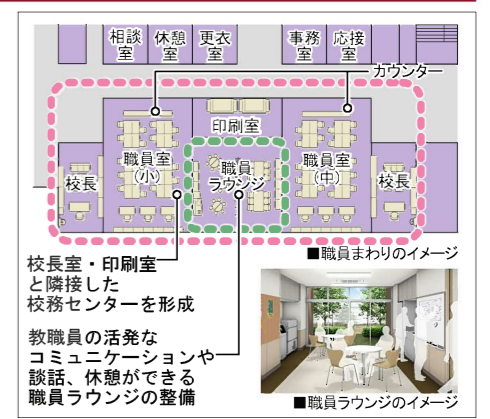
・特別教室ゾーンに大階段を設け教科の連携や探求する学び、児童生徒の活動が広がる計画とします。  
・日頃から手の届く場所に図書コーナーやデンを設け、流動的に人が行き交いながら学べる、目的に応じた多様な居場所を計画します。  
・児童生徒の動線が交差する位置に学年集会や教科の発表など、多様な学習に対応可能な多目的教室を配置するとともに、岩石山の豊かな山並みを見渡せる交流ラウンジを設け、移動する中で活発な異学年交流を促す計画とします。



5 教職員が働きやすく、子どもたちを見守りやすい執務環境を形成します。

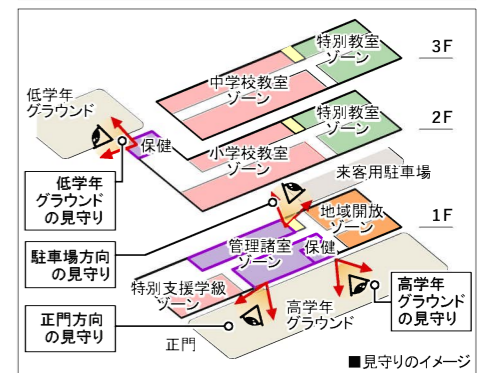
■ 教職員が「チーム」として連携・協働しやすい校務センターの形成

・職員室内に打合せや談話・休憩が可能な職員ラウンジを設け、校長室や印刷室をまとめて配置した校務センターを形成し、教職員が連携・協働しやすい環境を形成します。



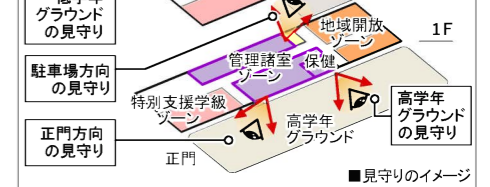
■ 児童生徒や保護者が安心して相談できる環境づくり

・職員室の入口廻りにカウンターを設け、児童生徒が立ち寄りやすく相談しやすい計画とします。  
・相談室は職員室に近接し、児童生徒の主動線と分けた位置に計画することで他の児童生徒の目につきにくく、保護者と共に安心して利用できる計画とします。



■ 大人の目で見守る環境づくり

・教職員の移動と正門や駐車場の視認性を考慮し、防犯管理がしやすい1階に管理諸室をまとめ、小学校用の保健室を低学年グラウンドに面して配置することで、高低差のある敷地全体を大人の目で見守ることができる計画とします。



● 課題②: 設計コンセプトを踏まえた建築計画

● 配置計画・平面計画・断面計画等の具体的な建築計画

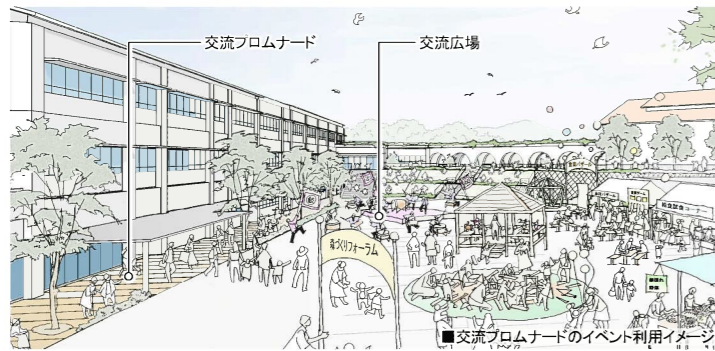
1 敷地特性を最大限に活かし、子どもたちが安全に思い切り活動できる配置計画

■ 既存施設との連携に配慮した新校舎のコンパクト化と広くまとまりのあるグラウンドの確保

・既存施設とのスムーズな連携利用に配慮した位置に、新校舎をコンパクトにまとめ運動会や地域イベントに対応する広くまとまりのあるグラウンドを確保します。

■ 保護者送迎と地域利用動線を温かく迎え入れる『交流プロナムード』

・保護者送迎や図書室などの地域利用動線に配慮し、来客用駐車場を北側に計画するとともに、交流プロナムードを設け、異学年交流や地域交流を促す安全で豊かなアプローチ空間として整備します。



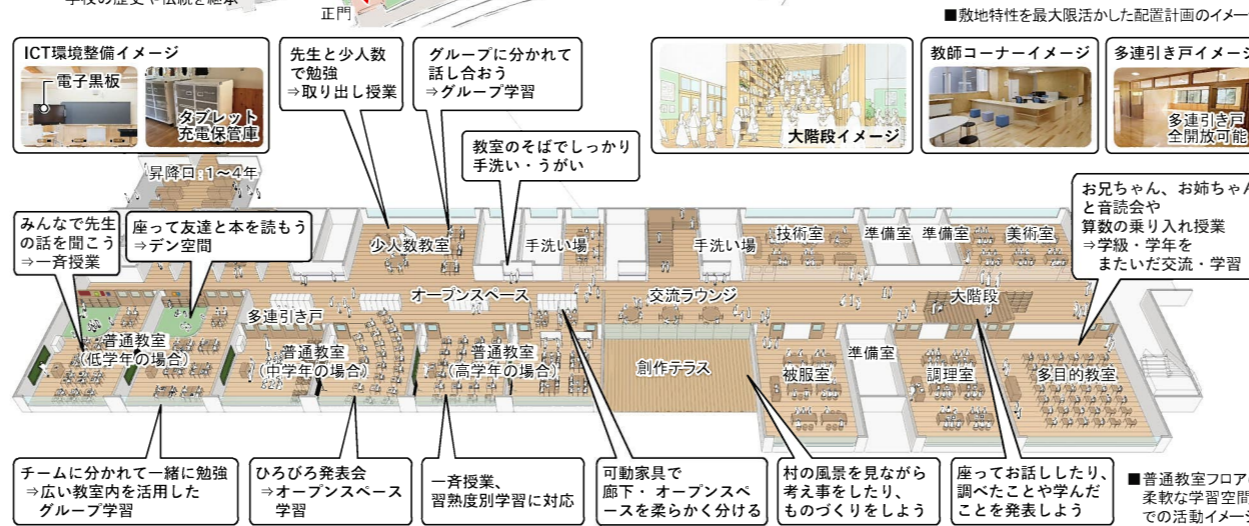
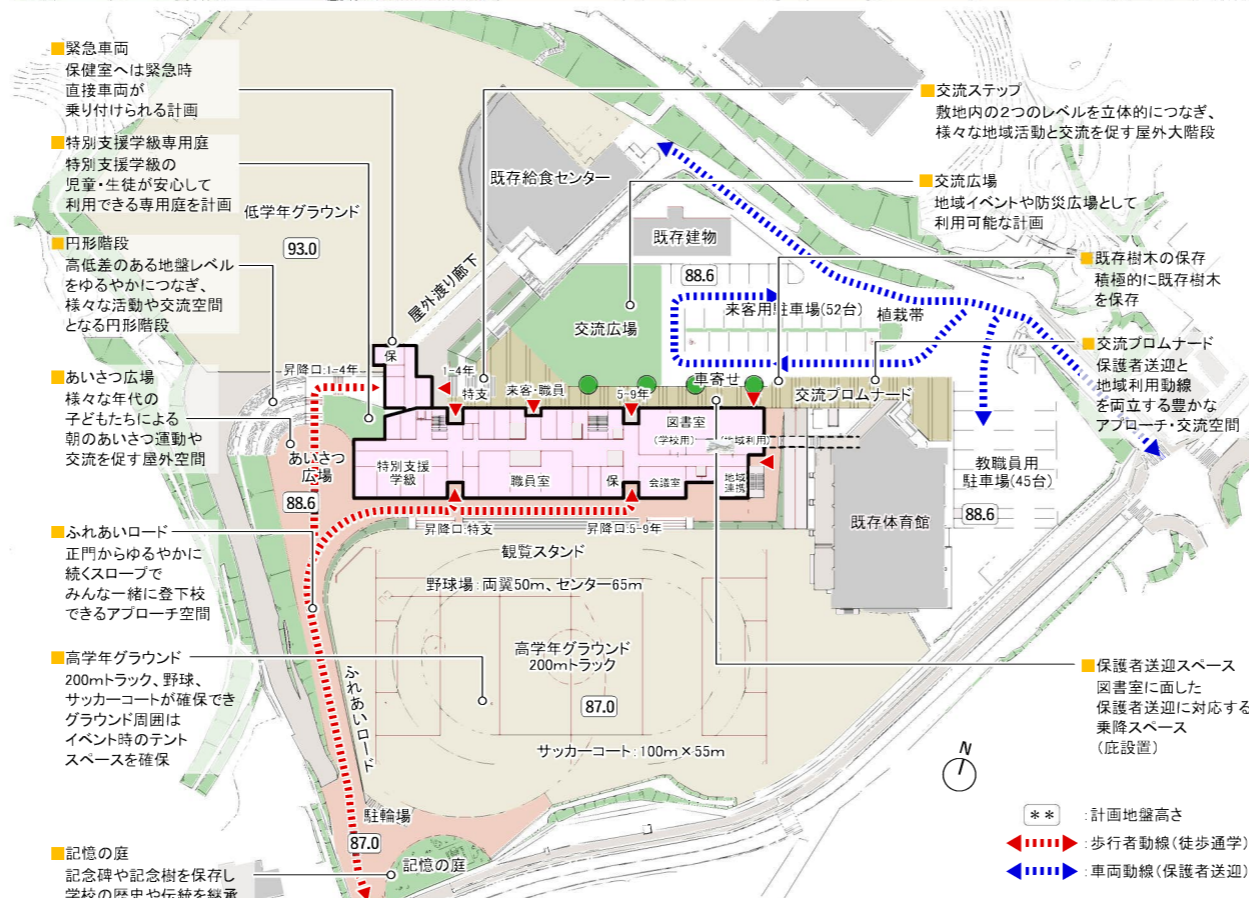
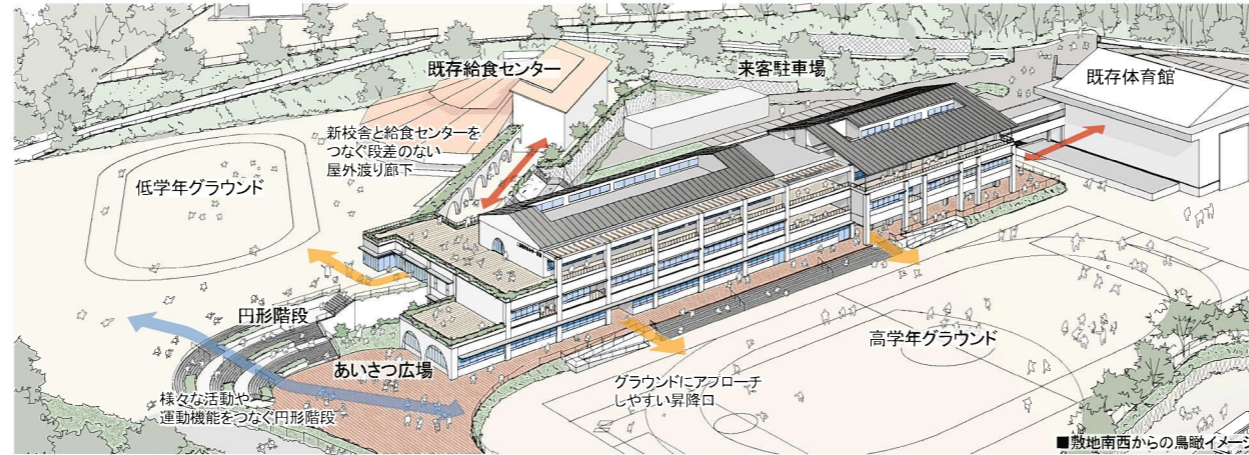
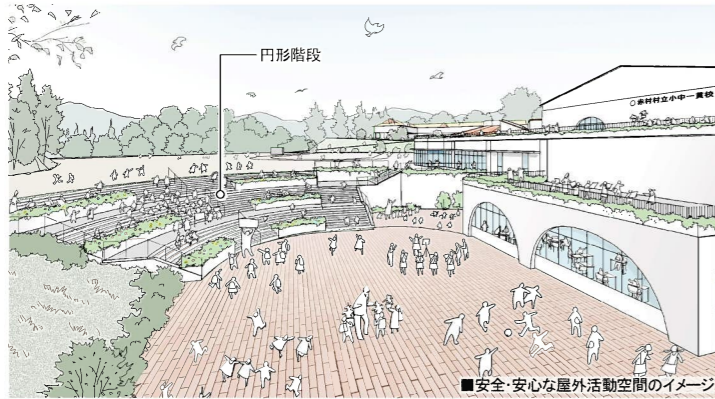
■ 登下校とグラウンドへのアプローチを両立する動線

・徒歩通学や保護者送迎によるアプローチや児童生徒のスムーズなグラウンド利用の両立を図るため、南北・東西に貫通型の昇降口を各グラウンドレベルに計画し、利用学年に応じた安全な昇降空間を形成します。

■ 高低差を活かし、子どもたちがのびのびと遊べる安全・安心な屋外活動空間の整備

・体格差に応じた屋外活動空間（特別支援学級専用庭・低学年・高学年グラウンド）を、2つの地盤レベルに沿って配置し、子どもたちが安全に思い切り活動できる屋外環境を整備します。

・2つのレベルを結ぶ『円形階段』によって、低学年と高学年の運動機能をつなぎ、段状の発表の場としても活用できる異学年交流・地域交流を活性化させる魅力的な屋外環境を整備します。

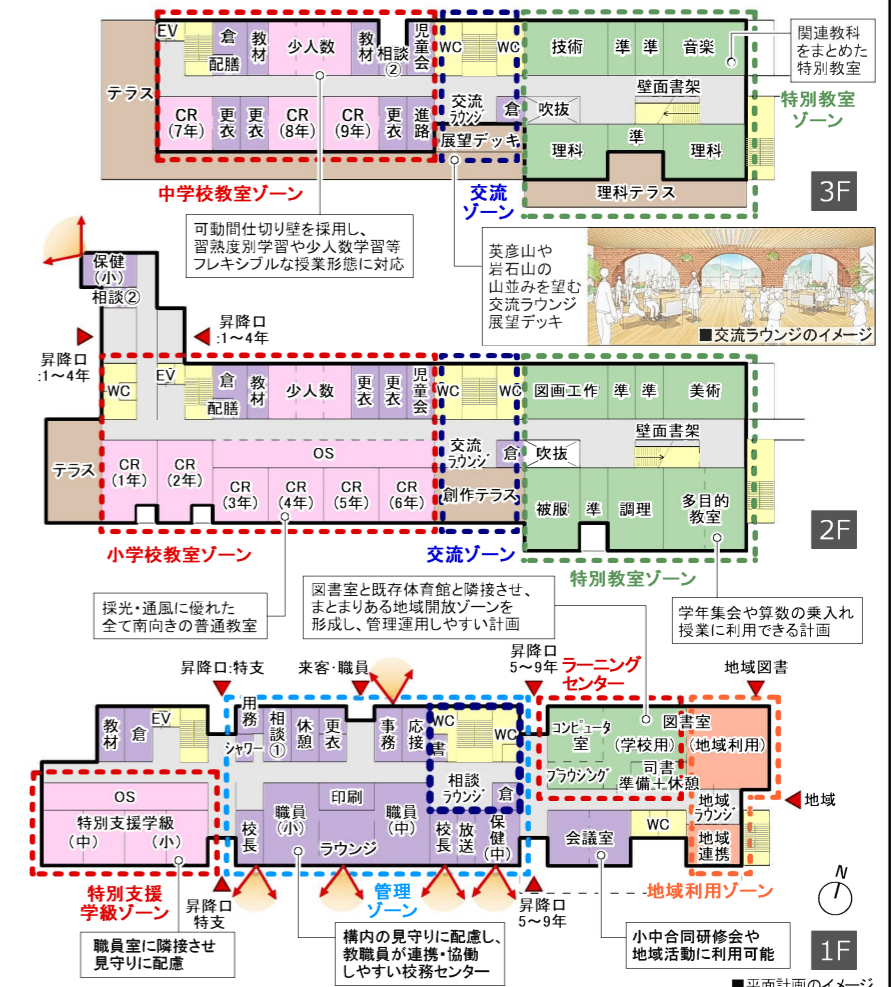


2 移動しやすく使いやすい平面・断面計画

■ 全て南向きの普通教室配置と明快な施設ゾーニング

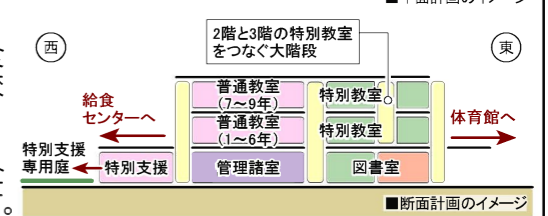
・1階に管理諸室や図書室、特別支援学級ゾーン、2・3階の校舎西側に普通教室ゾーンを配置し、東側に特別教室ゾーンをまとめ、将来的な地域開放を視野に入れた明快な施設ゾーニングとします。

・小学生(1~6年生)の普通教室を2階に、中学生(7~9年生)を3階にまとめ、学年の区分に配慮した教室のまとまりを形成するとともに、採光・通風に優れた全室南向きの教室配置とします。



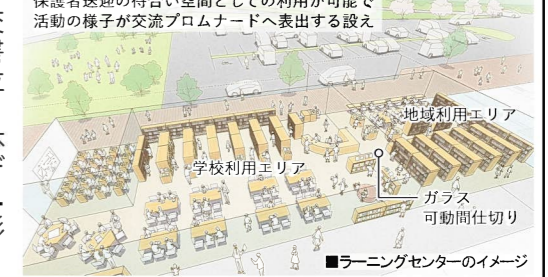
■ 移動しやすい断面構成

・高低差がある既存の給食センターと体育館を、校舎2階レベルの屋外渡り廊下で繋ぐことで、バリアフリーに対応した安全な移動動線を確保します。



■ 学校・地域図書室を一体とした“学び”と“地域交流”の核となるラーニングセンター

・児童生徒の学びと地域交流活動の拠点となる図書室は、学校の中心的な位置に配置するとともに、コンピューター室と一体的に整備し、図書とメディアを集積した「ラーニングセンター」として形成します。



● 課題③: 基本構想等に記載のない事柄に関する独自提案

・他者と差別化されたセールスポイント

# 1 みんなにとって優しく利用しやすい 快適で安全・安心な学校づくり

## ■ インクルーシブ教育を見据えた計画

- ・インクルーシブ教育環境を形成する一環として、各学年に配置した少人数教室を、特別支援学級や教師コーナーに割当てることが可能な平面計画とします。
- ・特別支援学級は、職員室に近接した位置に配置するとともに教師コーナーを設け、見守りしやすい計画とし教室前に設けたオープンスペースをプレイ・クールダウンスペースとして利用できる計画とします。

## ■ ユニバーサルデザインとバリアフリー対策の徹底

- ・エレベーターは、既存給食センターと新校舎を結ぶ屋外渡り廊下の動線上に設け、校舎各階への配膳利用に配慮するとともに、職員室に隣接させ、車椅子利用者が安全・安心して移動できる計画とします。
- ・特別教室の将来的な地域開放を考慮し、各階の中央部に配置した交流ラウンジにエレベーター設置が可能な建築計画とします。
- ・福岡県やさしいまちづくり条例に準拠した廊下幅員の確保やスロープの設置など、バリアフリー対策を徹底するとともに、分かりやすいサイン計画や安全なディテールにより、誰もが利用しやすいユニバーサルデザインを取り入れた施設づくりを行います。

## ■ 明るく使いやすい清潔なトイレ(LGBTへの対応)

- ・校舎各階に、LGBTに配慮した誰もが利用できる「だれでもトイレ」を計画し、明るく清潔で掃除がしやすいトイレを計画します。

# 2 あらゆる災害(地震・火災・水害)に強い安全・安心な学校施設づくり

## ■ 耐震・耐火性に優れたRC造の採用と非構造部材の耐震化

- ・建物構造は、大地震時の耐震性や火災に対する耐火性に優れた鉄筋コンクリート造(純ラーメン構造)とし、木造や鉄骨造に比べ、低コストとなる耐火建築物を実現します。また構造体は重要度係数(1=1.25)を確保し、地震時に建物と人命を守る計画とします。
- ・天井やガラス・照明等の非構造部材、設備機器・家具を耐震化し、安全・安心な建物とします。

## ■ 災害時における避難所運用を考慮した施設づくり

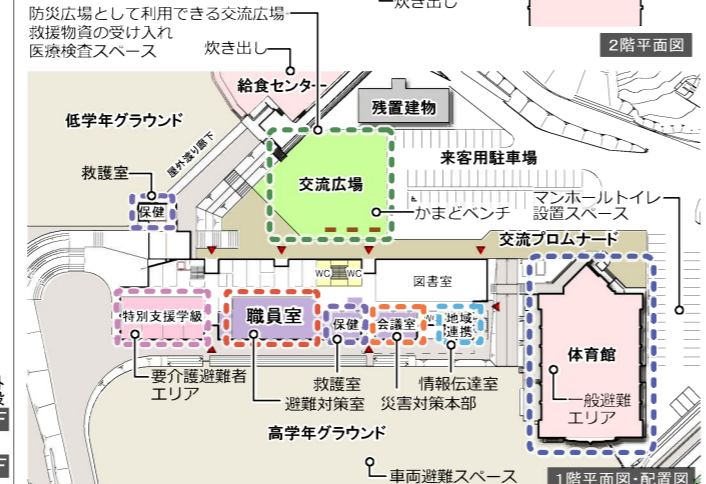
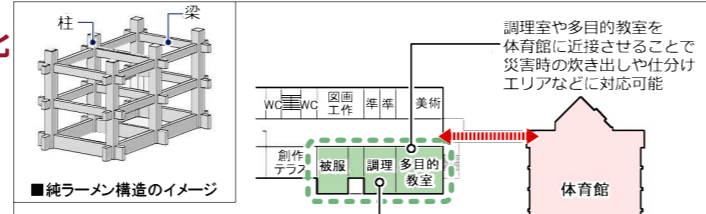
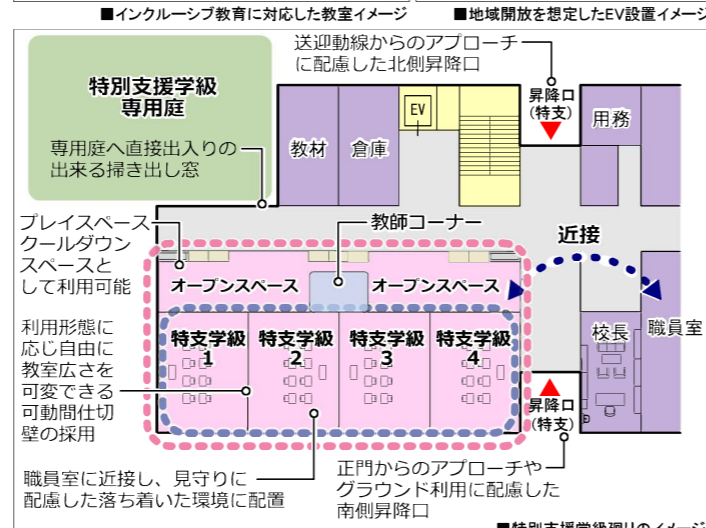
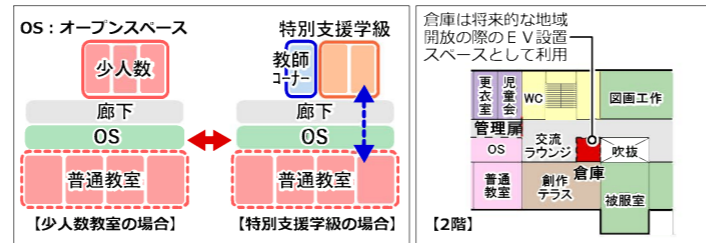
- ・地域避難所としての体育館は空調設備を整備するとともに、屋外のマンホールトイレやかまどベンチ、受水槽への水栓設置など、的確な防災設計により、安全・安心な建物とします。

## ■ 特別教室と体育館との連携による避難所機能の充実

- ・体育館と校舎は屋外渡り廊下で直接繋ぎ、調理室・被服室や多目的教室を体育館と隣接して計画することで炊き出しや支援物品の仕分けエリアとして連携できる計画とします。

## ■ 高低差を活かした安全な避難動線の確保

- ・1階と2階に計画した昇降口(避難口)により、各教室から最短経路で屋外へ避難できる計画とします。また全校の児童生徒が1箇所(マンホールトイレ)の避難口に子どもたちが集中しない計画とします。



# 3 赤村の自然環境を活かし、最小限のコストでZEBreadyを実現する、ライフサイクルコストの低減に配慮した長寿命な施設づくり

## ■ イニシャルコストを削減する手法

- ・整形な校舎形状で、国庫補助対象となる適正な整備面積を徹底するとともに経済スパンの徹底、工業製品などの積極採用により、建設コストを低減します。
- ・高騰傾向が顕著な鋼材、特殊な仕様の設備などを最小限に抑える構造、工法、設備計画を行います。
- ・校舎の設計地盤レベルを既存校舎や駐車場の地盤レベルにあわせることで、根切り量を削減するとともに、掘削土の埋め戻しを法面部や地盤レベル高上げの盛土に有効活用することで建設コストの削減を行います。

## ■ 赤村の豊かな自然環境を活かしたランニングコストの削減

- ・卓越風(北～北西風)などの自然エネルギーを利用したパッシブな省エネ手法を組合せ、ランニングコストの低減を図ります。また、エコモニターによる発電量や消費電力表示など、さまざまな環境対策が見える環境教材となる校舎とします。

## ■ 学校ZEB化とコスト低減を両立する学校施設計画

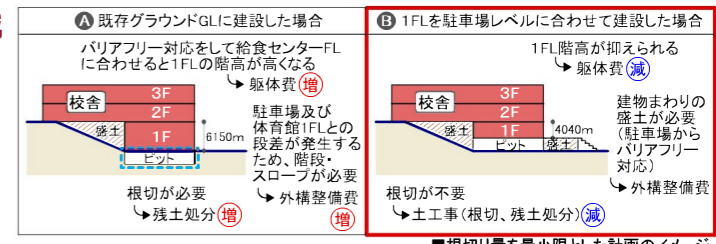
- ・一般的な実績ある省エネ手法をバランスよく採用し、ZEB導入に必要な設備対応を、先進的な特殊機器とせず効果的・効率的、かつ、全国で実績のある手法のみを採用し、最小限のイニシャルコストでランニングコストを抑え、ライフサイクルコストを削減しながら“ZEBready”を実現する校舎づくりに努めます。
- ・国庫補助の整備費8%加算が可能なZEBready以上の省エネ性能を実現し、創エネ設備の整備などにより、ネット・ゼロ・エネルギーを実現可能な計画とします。

## ■ 修繕や維持管理に配慮した長寿命な建築計画

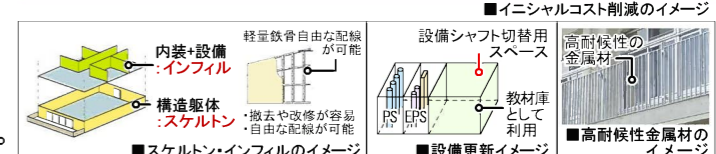
- ・ゆとりある設備スペースやスケルトン(構造)とインフィル(内装・設備)を明確に分離し、将来的な教室の改修が行いやすい自由度の高い計画とします。
- ・外壁には、庇や一部バルコニーの設置により雨だれの少ない計画とし、光触媒コーティングの採用による汚れ防止や耐候性の高い外部金属材料を採用します。

主なイニシャルコスト削減手法	
・建築面積を抑えたコンパクトな計画	・工業製品や汎用品の積極的採用
・経済的なスパン・空間構成	・部分ビットによる埋め戻し土量の削減
・内外装部材の規格・標準化	・高支持力杭による杭本数の削減、工期短縮
・設備システムの合理化	・整形で外壁面の少ない校舎

主なランニングコスト削減手法	
・高効率機器による光熱費の削減	・乾式間仕切りを採用し、フレキシビリティ確保による改修費の削減
・太陽光発電・雨水利用による光熱費の削減	・清掃しやすいディテール、テラスの設置等による特殊清掃費の削減
・自然換気システムによる光熱費の削減	・耐候性の高い材料や機器採用
・節水機器・器具の採用による光熱費の削減	・EPSなど情報機器増設スペースの確保
・人感センサー設置による光熱費の削減	



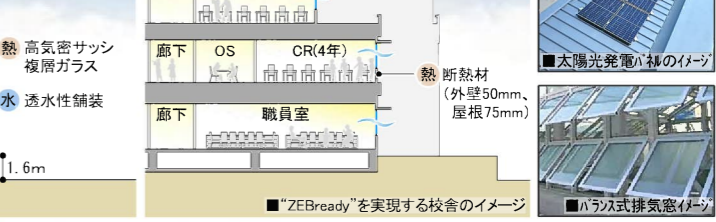
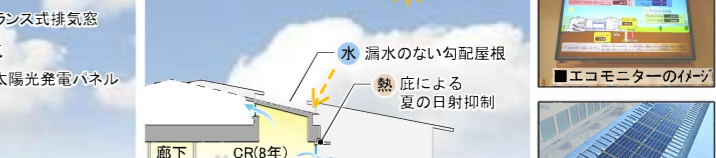
既存グラウンドGLに建設した場合		1Fを駐車場レベルに合わせて建設した場合	
校舎	3F	校舎	3F
	2F		2F
	1F		1F
	6150m		4040m
	根切が必要		根切が不要
	残土処分(増)		土工事(根切、残土処分)(減)
			躯体費(減)
			建物まわりの盛土が必要(駐車場からバリアフリー対応)
			外構整備費(増)



工事費削減項目		想定コスト削減
造成・土工事	新校舎1Fを駐車場レベルに合わせた計画	-300万円
躯体工事	階高の抑制・上部構造の軽量化・経済的なスパンの採用	-2,000万円
内外装工事	サッシ・内装材の汎用材・流通材の採用	-1,700万円
	合計	-4,000万円

■イニシャルコスト削減のイメージ

## 最小限のコストでZEB化を目指す特殊機器を使用しない実績ある手法



# 4 豊かな自然環境や地域景観に馴染む 赤村の風景となる校舎デザイン

- ・霊峰英彦山や岩石山の緑豊かな山並みに調和した勾配屋根や、筑豊の近代化を支えた国の登録有形文化財となる内田三連橋梁をモチーフとしながら、赤村ならではの自然環境や地域景観に馴染む、校舎の外観とします。

